



大変でも、あきらめない。

優れた作品は、そこから生まれる。

場をやさしく包み込む、ゆったりとした人柄からは想像しがたい、ポップ、ユーモラス、エキセントリック、ファンタジックな作品群。若手アートディレクターの注目株、吉田ユニのことである。内に秘められた、ものづくりに対する強い意志に迫る。

Photo 長野陽一 Text 立古和智

何

かして遊ぶにしても、まずおもちゃを自作するような子どもでしたね。「歯医者さんごっこ」なら、ピンクの練り消しゴムの上に白い小石を並べた入れ歯に虫歯を描くのです。カルテも作るし、虫歯は白い絵の具で消して治療する、と(笑)。そんな風に細部にこだわるのは、子どもの頃から変わっていない部分です。小学3年生のときには、誕生日プレゼントに電ノコをねだったくらいですから、他の子よりもつくることが好きなんだと自覚してはいたものの「こんな中学があるよ」と女子美の付属を薦めてくれたのは母でした。いざ入学してみると、ユニークな子たちが集まってくる学校でしたね。私もよく「変わった子だ」といわれてきましたけど、あそこでは普通だったはず。みんなが仲間の個性を尊重しあう環境で、いい意味で干渉し過ぎないから、居心地がいいのです。本当に伸び伸びと過ごせました。中高では絵画、大学ではデザインが専攻だったので、そんなに真面目な学生ではなかったと思います。いつも課題には、締切間近になって慌てて取り組んでいましたし、熱中できる課題と熱中で



吉田ユニ

1980年、東京生まれ。女子美術大学付属中学・高校を経て、女子美術大学芸術学部デザイン科造形計画専攻へ。卒業後は、日本を代表するアートディレクター、大貫卓也氏と野田風氏に師事。2007年に独立。広告、グッズ、CDジャケット、本の装幀、プロダクトなど幅広い分野でアートディレクションを担当しているほか、CMやミュージックビデオの監督も手がけている。

のことも含めて勉強させていただきました。私も、やっぱりあきらめてしまふのは苦手なんですよね。デザインは私ひとりではなく、関係者みんなで行うものですが、途中の作業が無駄になつたとしても、最終的に優れたものができ上がれば、みんな喜んでくれるはず。そう考えると、困難を前にしてもあきらめずに頑張り通したくなります。デザインの仕事は完成したもののだけを見ると華やかですが、途中の作業はすごく地味で大変。特にアートディレクターは最初から最後にまで関わるから、苦労も一際です。けれども、その分、完成すると大きな喜びを味わえる。そんなやりがい満ちた仕事なんですよね。



きないものとで差も大きかった。就活も、なんとなく広告代理店を受けたものの、最終的には全部ダメで、卒業間近まで行き先が決まりませんでした。だから。ただ3年次に受けた広告の授業をきっかけに、広告の世界を志したのは確かです。制約がある中でものづくり。条件内で最良のポイントを探す。自分はそういったことに燃えるのだな、と自覚しました。それにこの頃から「人に伝わるデザイン」を強く意識するようになったのです。「優れたデザインとは？」と問われれば、やっぱり「人に伝わるデザイン」ですね。それに尽きます。私の作品の見た目に注目されることもあります。あれはあくまで取っかかりに過ぎず、それが一番大切なわけではありません。もちろん頭の中で思い描いてい

たいイメージが形になること自体は嬉しいものの、それが人の目に触れることによって商品が売れるなどの効果を得られなければ「何のためのデザインだ」と思ってしまう。「面白いだけでは、広告じゃない」という姿勢は、私が以前つとめていた大貫卓也さんの事務所ですんだことのひとつでもあります。大貫さんは「こっちのほうがデザイン的には格好いい」と感じて、それを基準には選びませんし、実際、大貫さんが広告を手がけると、商品がダイナミックに動くのです。日常的にそんな光景を目にしていたら「面白いだけ」は受け入れられなくなります。それに大貫さんは、良いと思ったアイデアでも、それが本当に優れているのか、きちんと検証するので。デザインの細かな詰めに対する

こだわりも半端ではなかった。あの頃に学んだことは、私の基礎になっています。最近よく思うのです。大貫さんや、以前私が師事していた野田風さん、それ以外にも身近で活躍している人を見ると、みなさん絶対にあきらめないのですよね。だからこそ飛び抜けたクオリティの作品が生まれる。実際、野田さんが何かを実現させるときに注ぐパワーは凄まじかったです。周囲を納得させるときのプレゼンも、ずば抜けていました。その分、大変な部分はあるのでしょうけど、そ

東京都美術館に、付属から大学院まで女子美生が集合 第7回女子美スタイル、開催！

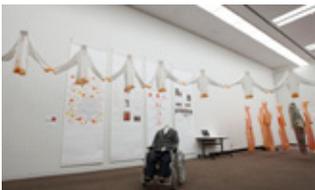
3月2日～8日にわたり、上野の東京都美術館にて「女子美スタイル2012—113年愛と誇りを抱いて—」を開催しました。今回で7回目を迎える「女子美スタイル」。昨年までは大学院・芸術学部・短期大学の全卒業・修了制作作品の中から選ばれた作品約190点による学外展でしたが、今年は付属高等学校の卒業制作も含め380点余の作品が一堂に会する迫力のある展覧会となりました。

1900年の創設以来、本学は「女子」が持つ力、なかでもその「愛」や「誇り」を大切にしてきました。展示作品を選抜するにあたり、創立113年を迎えた今、改めて「女子」という言葉の中に込められた本来持ちうる力に注目し、その思いを基に南郷宏教授、廣田尚子教授、日沼禎子准教授の3名の先生により180点余の作品が選ばれました。東京都美術館の地下から1階までの展示室は女子美生の作品で覆いつくされ、4つのフロアを席巻。オープニングパーティーでは「JOSHIBI Rainbow Award」授賞式

が行われ、会場は一層華やきました。今年は「東京五美術大学 連合卒業・修了作品展」と会期が重なったため、双方の会場から授賞者を選考、受賞作品はバラエティに富んだ内容になりました。Rainbowの7色にちなんだ審査員賞が贈られるこの賞、Yellow Prizeの審査員である石井孝之さんは「ギャラリーをディレクションする立場の人間として『女子美スタイル』は新人作家発掘の最適の場。今後も注目していきたい」とコメント、会場はおおいに盛り上がりました。7名の受賞者は、ファッションテキストスタイル表

現領域の学生チームが制作したそれぞれのカラーにちなんだヘッドドレスを贈られ、注目の的。また、ヘッドドレスとともに贈られる賞状の「たとう」はヴィジュアルデザイン専攻の学生チームが制作、こちらも受賞者の姿に華を添えました。会期中には記念トークも開催。「女子美の明日を語る」をテーマに、本展ディレクターの南郷宏教授

の司会のもと、本学に関わりをもつ5名の女性による「女子会」のような楽しいトークが展開されました。ゲストのひとりである佐野ぬい前学長の軽妙な語り、会場は終始、和やかな雰囲気にも包まれていました。期間内来場者数は11,303名、昨年以上に活気あふれる展覧会となりました。



Red Prize
キム・ソンジョン
(アートソングセンター、チーフキュレーター)選
『この“ふく”とまれ』
熊崎江梨香
大学院 美術研究科 修士課程
デザイン専攻 ファッション造形研究領域



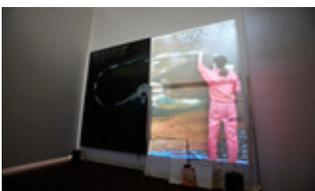
Orange Prize
家村佳代子
(トキョーワンダーサイト、プログラムディレクター)選
『てがみや』
海原仁美
芸術学部 絵画学科 洋画専攻



Yellow Prize
石井孝之
(タカ・インシギャラリー、ディレクター)選
『私の一部、一部の私』
坂井小陽
芸術学部 絵画学科 洋画専攻



Green Prize
紫牟田伸子(デザインプロデューサー)選
『Fitoy 球と紐の玩具』
楠 享子
芸術学部 デザイン学科
プロダクトデザインコース



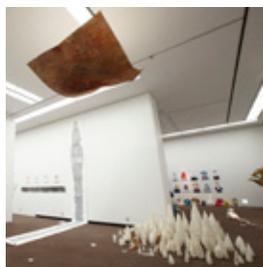
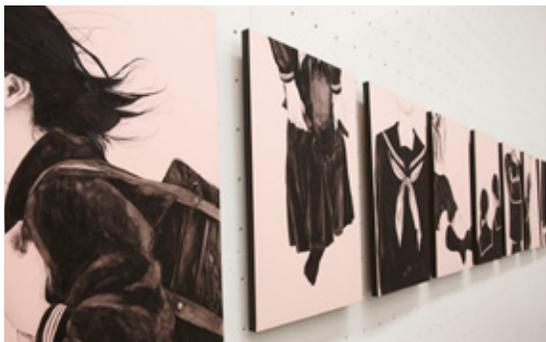
Blue Prize
住友文彦(キュレーター)選
『Portrait』
松井晴果
短期大学部 専攻科 造形専攻
創造デザインコース(メディア)



Indigo Prize
横山勝樹(建築家 / 女子美術大学学長)選
『威風堂堂』
八木緑日里
芸術学部 工芸学科 陶コース



Violet Prize
南郷 宏(美術評論家 / 女子美術大学教授)選
『即自且つ対自』
染谷耕呂奈
芸術学部 ファッション造形学科



「展示」というアート行為を考える新しい試み
『pre-exhibition 何かが始まる少しまえ』開催

芸術学部絵画学科洋画専攻の4年生が中心になり、2012年12月19日から21日まで展覧会が開催されました。会場はアトリエがある8号館3階、展示作品はすべて卒業制作。例年ならば、卒業制作の展示は最終採点のために準備するだけでした。けれど「卒業制作は学生時代最後の作品。だからこそ、展示するアトリエも作品を形作る要素のひとつなのでは？」との意見が出され、検討。「卒業制作は学生時代を集結した作品。それは終わりではなく、そこから新しい道が始まる」という思いをこめて4年生全体で一般公開の展覧会に取り組みました。「とはいえ、4年生全員の気持ちと同じポイントに持っていくのは…大変でした」と話すのは実行委員の塩山晶子さんと、若林友紀さん。思いだけが募り、言葉がきちんと伝わらないことに悩んだこともたびたび。けれども、全員でひとつの目的に向かって開わり合うことが大切の思いで取り組むうちに「自分は全体の一部、全体を作

るためには何が必要か」という客観的な視点を持てるようになったと話してくれました。本企画では展示と共に、ゲスト講師として呉垂沙さん(アーティスト)、光田由里さん(美術評論家)、山本冬彦さん(コレクター)を招いての公開講評や、学生自身による作品解説も実施。またレセプションでは、学生投票で選ばれた5名にオリジナリティあふれる賞が授与され、最後まで学生らしさにあふれたものになりました。

るためには何が必要か」という客観的な視点を持てるようになったと話してくれました。本企画では展示と共に、ゲスト講師として呉垂沙さん(アーティスト)、光田由里さん(美術評論家)、山本冬彦さん(コレクター)を招いての公開講評や、学生自身による作品解説も実施。またレセプションでは、学生投票で選ばれた5名にオリジナリティあふれる賞が授与され、最後まで学生らしさにあふれたものになりました。



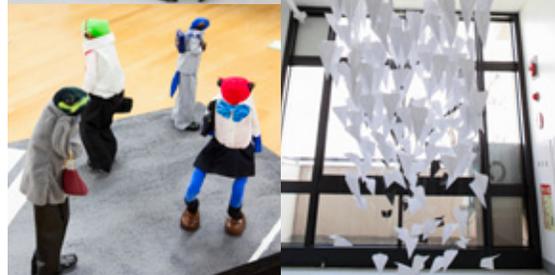
描画賞 「呼吸を止めて1秒、あなた真剣な眼をしたから賞」



色彩賞 「春が来て君はきれいになった賞」



マイフェイバリット賞 「奴は大変な物を盗んで行きました…あなたの心です賞」



2012年度卒業制作展 / 修了制作展

3月14日〜17日、相模原と杉並の両キャンパスで2012年度卒業制作展 / 修了制作展を開催しました。開催期間最終日には、芸術学科優秀卒業研究および大学院修士論文発表会が相模原キャンパスで開催。学生生活の集大成である卒業制作や、さらにそこから研究を進めた修了制作を鑑賞しに、多くの来場者がキャンパスを訪れました。



女子美だからこそできる
アートプロジェクト
共に感じる、共に楽しむ、
共につくる

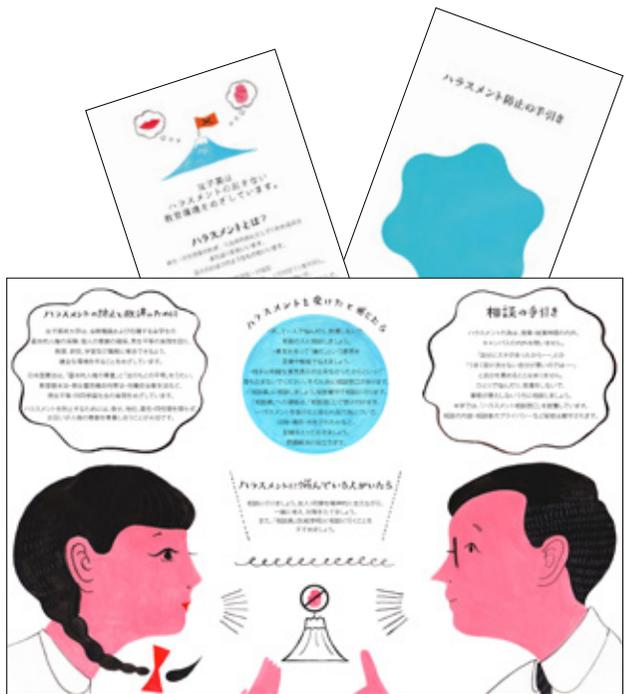
2000年、創立100周年を記念に
本学同窓会は各地でワークショップを
開催。そのなかのひとつ、障害のある方
の作品との出会いがあり、本学短期大
学部が「障害理解とアートフィールド参
画支援の取り組み」を実施するきっか
けになりました。杉並区との連携協働
事業をはじめ、体験教育のひとつとし
て数々のサービスマーケティングの授業
を実施。今では国内のみならず、海外
にまで活動の場所をどんどん広げて
います。2012年9月には、鹿児島
の知的障害者支援施設、工房しやうぶ
で小川正明教授の指導の下、スチレン
版画によるワークショップを開催。ま
た、同工房で行っている「mi project」に
2011、2012年と続けて学生と
教員が参加し、工房の利用者のみなさ
んと共に一本の針でひたすら縫い続け

る体験をしました。参加した小林信恵教
授によると「縫う」という行為を楽しむこ
とで、共につくることの素晴らしさを改め
て知ることができた、とのこと。実際に参
加することで、ものづくりに対する視点や
人生観がかわる学生が多い、と木下道子
名誉教授も話してくれました。また、本学
は障害者アートを収集した「女子美コレク
ション」を構築しています。2012年7
月には三重県桑名市博物館、今年1〜3
月には蕪崎大村美術館にて「女子美コレク
ト展」が開催され大きな反響を得ました。
女子美生のつながりから始まったこのプ
ロジェクト、2013年もさまざまな企
画に取り組みます。興味のある方は短期
大学部美術コース、デザインコースの研究
室までお問い合わせください。

担当責任者
小林信恵教授

担当・美術コース
八木なつき准教授、山本雄三准教授

デザインコース
後藤浩介教授、佐藤真澄准教授



最後まで責任を持つから、 達成感も大きい 「学生デザインルーム」の 仕事

2012年、4月に発足した「学生デザインルーム」。これは、学内外からの印刷物のデザインの仕事を受注し、女子美生スタッフが現役アートディレクターから指導を受けながら実際にデザイン実務を経験することを目的としたいわば「学内デザイン事務所」です。学内組織ではあるものの実際にデザインを手掛けるため、担当の学生スタッフには仕事に応じてデザイン料が支払われることも「学生デザインルーム」の特徴です。ほぼ一年、スタッフとして業務に携わってきたヴィジュアルデザイン専攻3年の池尾麻里さんと、須原花梨さんも「デザイン料をいただけることは嬉しさと同時に、責任も感じました」

と話します。課題ならば、自分のデザインを自由に考えて提出して終了…ですが、納品までが自分の責任内の仕事となると「最後の最後まで気を抜くことなく、全力で取り組んでいます」と池尾さん。そんな池尾さんに誘われ、デザインルームに所属することとなった須原さんは「クライアントの意思を意識しながら、レイアウトを組むこと自体が初体験。戸惑うこともありましたが、多くの人たちの眼にふれる印刷物を作ることができるとはやっぱり楽しいですね」とのこと。責任も緊張感も大きいけれど、自分のデザインが印刷物として形になる嬉しさ、そして実践的なデザインを手掛けることで確実に自分に力がつく手応え。「このふたつを実感できるのは、女子美のデザインルームならではの「思います」とふたりは話してくれました。デザインルームの仕事に興味がある方は、キャリア支援センターまでお問い合わせください。



新入生に向けて

学校法人女子美術大学
理事長 大村 智



新入生の皆様へ

本学園では伝統に培われた有形無形の校風が皆様方を包んでくれると思います。これまで、美術・芸術系の文化勲章を受章した女性5名の内、片岡球子、大久保婦久子、文化功労者の三岸節子、郷倉和子を本学から輩出しました。これらの先輩方は皆、独創的で個性豊かでしっかりした仕事を持たれ、力強く生きて来られた方ばかりです。人生のこの

上もない手本となる先輩方が、何を求めいかに生き、創造性豊かな独自の世界を切り開いて芸術の発展、ひいては社会の発展に貢献して来られたかを学んでください。そして、皆様の活躍によって自身の人生を素晴らしいものとすると共に、女子美の伝統を一層輝かしいものにする気概をもたれることを期待します。

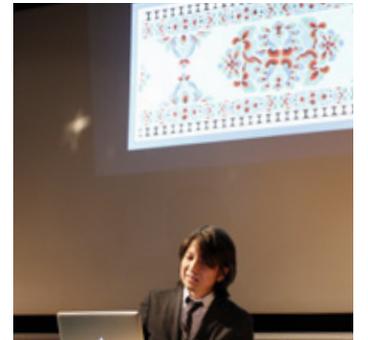


新入生のみなさん、ようこそ女子美へ。

学長 横山 勝樹

みなさんは今、受験勉強から解放され、幸せな気分がいっぱいだらうと思います。ですが、大学に入ることはゴールではありません。大学はあくまで始まりの一手手前。将来、どんなことをしたいのか？それを決めるのは、まだ先でいいのです。でも、これまでよりもずっと広い視野で美術やデザインを学び吸収し、じっくりと未来を考えて欲しい。どんどん、自分の可能性を広げて欲しい。そのためにも、大学で過ごす時間を大切にしてください。ここにはあなた自身

の居場所があり、志を同じくした仲間もいます。勉強はもちろんですが、仲間との生身の付き合いも大事。リアルな対話でしか得られないものがあるのですから。そしてまた、自分の好きなことを、めいっぱいやってください。それらすべてが、自分自身を模索するための助けとなってくれるでしょう。女子美での毎日は、社会人になったらもう二度と手に入れられない、かけがえのない時間。私もみなさんと共に過ごす時間を、今から楽しみにしています。



佐藤卓、澁谷克彦、野又穂
東京藝大デザイン科同窓生、女子美でおおいに語る

1月11日、佐藤卓さん(グラフィックデザイナー)、澁谷克彦さん(株式会社資生堂宣伝制作部クリエイティブディレクター)、野又穂さん(美術作家)による特別講義が芸術学部ヴィジュアルデザイン専攻研究室の主催により開催されました。ヴィジュアルデザイン専攻の学生の他、他専攻や学外の方々など300名ほどが来場し、大盛況の講義となりました。「DesignとArt」というテーマのもと、自身の作品や学生時代の話、好きなデザイン・好きなアートなど話題は多岐にわたり、また3人の方全員が学生の頃は音楽に夢中で「現在の

自分は、学生当時は想像もしなかった仕事をしている」とのエピソードに、会場はおおいに沸きました。「デザインに妥協というものは存在しない」という佐藤卓さんの言葉や、学生時代に伝統文様である唐草模様を模写した経験がデザイナーの仕事に役立ったことから、本物の知識や伝統に触れることの重要性を話された澁谷克彦さん、そして広告の仕事しながら作品を制作し続け、美術作家として絵画表現を追求する道を歩んだ野又穂さんのお話を聴くことができた今回の特別講義は、女子美生にとって刺激的なものになりました。



短期大学部部长
小林 信恵



芸術学部部长
橋本 弘安



大学院美術研究科科长
上葛 明広

MESSAGE 03



川村 貞知

芸術学部 アート・デザイン表現学科
メディア表現領域 准教授

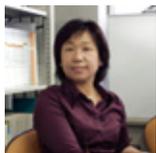
女子美に来てからの6年間、
色々な印象深い授業やプロジェクト等、
多くの事を経験をし、沢山の事を学ぶことができました。
どうもありがとうございました。



岡崎和美

短期大学部 造形学科 美術コース 助教

人類の歴史を眺めてみると、その折り折りの進歩は、常に少数の“型破り”な人々によって成し遂げられる事が多い。されど、その“型破り”は型を修得してからのものである事も事実です。代々継承されてきた伝統(基本)という型をよ〜く体得し、その上で未来のある皆さんには、偉大な“型破り”になってもらいたいと願っています。
『刺繍』は本当に、楽しいものです！



澤井史穂

芸術学部 保健体育系 教授

遺伝学者によれば、個人の能力は遺伝的に決まっているけれども、能力を発揮するためのスイッチがあり、ほとんどのスイッチはoffになっている。onにするのは自分の努力など環境的な要因なのだそう。ですから、自分にはできないとか合っていないとか、すぐに決めつけず、自分の可能性を信じてoffになっているスイッチをonにする努力を常に心がけて下さい。やればできる！



宮城 真

芸術学部 美術学科 日本画専攻 教授

伝統と革新。アカデミズムを学び、基礎力を高めてこそ応用が利くようになる。様々な表現方法を通し、自分にしかできない作品を探し続けること。失敗を恐れず、他人に阿ねることなく、感性を磨き作品に反映していくことが大切。環境に恵まれた相模原の地で、大きく、豊かに、心優しく育まれることを、心から祈っています。



小川 正明

短期大学部 造形学科 美術コース 教授

また桜の季節がやってきました。私には、このところ月日のたつのが早く感じられます。ただ忙しくなって時間に追われるからではなく、仕事のベースが以前より遅れ、思考回路も鈍くなったせいでしょう。作品制作も同じ、だからこそ、その瞬間を大事に描くことを心掛けたいです。でも、がむしゃらに学び制作できる若い皆さんは、人生の大事なこの時期を有効に活用し、女子美での生活を大いに楽しんで下さい。



小山 容子

短期大学部 造形学科 美術コース 助教

昨年は山中伸弥先生がノーベル賞を受賞されたという喜ばしい年でした。山中先生は外科医としては腕が悪かったという報道は聞かれたことと思います。早々にご自分の得手不得手を知り、自分のひらめきを信じ、努力の日々があつた結果だったのです。人は生まれつき天才ではないのです。みんなも絶対天才になれます。自分にしか咲かせられない花を咲かせようとさえ思い、努力を忘れなければ。

MESSAGE 02

新任専任教員からみなさんへ



八木 なぎさ

短期大学部 造形学科 美術コース 准教授

10代の頃は建築家になるのが夢だった私、でも物理が苦手で挫折、次は技法材料の勉強をして修復や素材研究をしたい、と思っていたのに気がついたら版画の世界に入り込み、リトグラフの魅力にはまってしまっていた。学生時代とは自分の小さな夢が現実になったり思わぬ所で大きな花を咲かせたりする為の、大切な基礎作りの時間だと実感しています。皆さんとともに悩み、ともに学びたい。

神奈川県生まれ。本学短期大学造形科、芸術学部洋画専攻を卒業後、1987年多摩美術大学大学院修了。日本版画協会会員。第55回版画展版画協会賞受賞、第12回日本具象版画展グランプリ受賞、第1回ジャパン大賞展佳作受賞など。



宮島 弘道

芸術学部 美術学科 日本画専攻 准教授

仕事でコメントやメッセージを求められることがある。絵描きは作品で語るものと、聞きなおることもできず、毎度悩みます。ある画家の個展でもらったパンフレットに本人の記した文章が載っていた。その人の絵を観るような複雑で味わい深いものだった。そういえば絵描きも、物書きも作家という。文章も絵を描くように書けばいいのだろうか。できないと諦めずやってみよう。

武蔵野美術大学大学院美術専攻日本画コース修了。第5回菅橋彦大賞展出品。第5回日経日本画大賞展入選。創画会賞受賞 (04.05.06)。

退職された先生方からみなさんへ



小野 克子

芸術学部 美術学科 洋画専攻 教授

学生の皆様へ
木に登りたい、とにかく木に登ってみたいと思う人。
木に登って見た風景を誰かに伝えたいから木に登る人。
なぜか禅問答の様に思えるのですが、この差は大きいと思うのです。



江川 澄子

芸術学部 アート・デザイン表現学科
ファッションテキスタイル表現領域 教授

「どこから見ても美しいシルエット」を表現することを志し、学生と共に過ごした時間と空間が今とても大事に思えます。何も知らなかった学生たちが卒業制作の最後の提出日に見せてくれるあの誇らしい顔が私の財産となりました。モノ作りへの探求心やこだわりの心をたくさん持ってください。表現の楽しさを知ってください。今後も女子美生の力を発揮して発展していくことを楽しみにしています。

03 | 平成24年度 卒業制作賞・優秀作品賞 等 受賞者

加藤成之記念賞

大学院

楊 心佳	美術研究科修士課程 デザイン専攻視覚造形研究領域
------	-----------------------------

芸術学部

中村花絵	絵画学科洋画専攻
坂本麻由里	絵画学科日本画専攻
亀山はなこ	工芸学科
米山 遙	立体アート学科
高原真央	デザイン学科
前田海遥	メディアアート学科
花井結布	ファッション造形学科
城間ココ	芸術学科

短期大学部

吉田晴美	造形学科美術コース
皆川 愛	専攻科造形専攻美術コース

福沢一郎賞

大学院

東 麻奈美	美術研究科修士課程美術専攻洋画研究領域
下河智美	美術研究科修士課程美術専攻洋画研究領域

大久保婦久子賞

大学院

横山瑛子	美術研究科修士課程美術専攻洋画研究領域
桑原佑美子	美術研究科修士課程美術専攻版画研究領域
奥村巴菜	美術研究科修士課程美術専攻工芸研究領域
加藤広子	美術研究科修士課程美術専攻立体芸術研究領域
熊崎江梨香	美術研究科修士課程デザイン専攻ファッション造形研究領域
楊 心佳	美術研究科修士課程デザイン専攻視覚造形研究領域

女子美術大学美術館賞

大学院

奥村巴菜	美術研究科修士課程美術専攻工芸(陶)研究領域
------	------------------------

芸術学部

中村花絵	絵画学科洋画専攻
川口奈々美	絵画学科日本画専攻
山田安衣里	立体アート学科
中野 楓	工芸学科
井本菜津子	デザイン学科
赤堀このみ	メディアアート学科
下川由梨子	ファッション造形学科

短期大学部

松永遥奈	造形学科デザインコース創造デザイン
------	-------------------

女子美術大学美術館収蔵作品賞

大学院

奥村巴菜	美術研究科修士課程美術専攻工芸(陶)研究領域
------	------------------------

卒業制作賞

芸術学部

塩山晶子	絵画学科洋画専攻
中村美穂	絵画学科洋画専攻
松坂紀美代	絵画学科洋画専攻
安高玲子	絵画学科日本画専攻
土居もの	工芸学科
細口香菜	立体アート学科
西岡真知子	デザイン学科
久保田信恵	デザイン学科
山崎由記	デザイン学科
飯田有葉	デザイン学科
小暮咲穂	メディアアート学科
野々村季彩	メディアアート学科
長谷川真緒	メディアアート学科
金 秀珍	メディアアート学科
阿部菜里奈	ファッション造形学科

優秀作品賞

芸術学部

鬼塚敬子	絵画学科洋画専攻
坂内直美	絵画学科洋画専攻
多良舞利恵	絵画学科洋画専攻
加藤千晶	絵画学科洋画専攻
清水真帆	絵画学科日本画専攻
西川果歩	絵画学科日本画専攻
依田和香子	工芸学科
八木緑日里	工芸学科
竹内七月姫	立体アート学科
宇生梨江	立体アート学科
綾部美夢	デザイン学科
久保有理子	デザイン学科
黒川愛紗	デザイン学科
菅沼めぐみ	デザイン学科
瀧田紗也香	デザイン学科
仲島千晶	デザイン学科
本釜ゆりえ	デザイン学科
岩淵温子	メディアアート学科
近藤麗水	メディアアート学科
角田夕貴	メディアアート学科
松田春花	メディアアート学科
西本絵美	ファッション造形学科
吉峯晶子	ファッション造形学科

優秀研究賞

芸術学部

鈴木詠美	芸術学科
中村彩華	芸術学科

卒業制作賞

短期大学部 造形学科

細川千鶴	美術コース
道本有香	美術コース
長谷川桃香	デザインコース 情報デザイン
村上優花	デザインコース 情報デザイン
藤田早百合	デザインコース 創造デザイン
山本菜月	デザインコース 創造デザイン

優秀作品賞

短期大学部 造形学科

遠藤祐佳	美術コース
坂上布由加	美術コース
向川華世	美術コース
金子明日美	デザインコース 情報デザイン
許 婉菲	デザインコース 情報デザイン
峯島沙穂	デザインコース 情報デザイン
小川真理子	デザインコース 創造デザイン
澤田実希	デザインコース 創造デザイン

短期大学部 専攻科 造形専攻

小林佳美	美術コース
大坪紗貴子	デザインコース 創造デザイン
松浦桃子	デザインコース 創造デザイン



01 | 大村智理事長 平成 24 年度 文化功労者顕彰

大村智理事長は、天然物有機化学、薬学の分野において、微生物に由来する有用な生理活性物質を探索し、医薬、農業等に多数の応用が図られたほか、寄生虫感染症の特効薬として開発されたイベルメクチンが世界保健機関(WHO)の感染症撲滅プログラムに活用されるなど、優れた業績を挙げています。また、斯学の発展に留まらず国際的にも多大な貢献をしたことにより、平成24年度文化功労者として顕彰されました。また、大村理事長は美術に造詣が深く絵画の蒐集家としても知られており、「優れた美術品というものは、本来は個人だけで楽しむものではなく、人類全ての共有財産である」という思いから、2007年、郷里の山梨県韮崎市に女流画家の作品を常設する韮崎大村美術館を創設。翌年、韮崎市に寄贈しています。韮崎大村美術館と女子美術大学は相互協力協定を締結しており、在校生、卒業生など本学関係者が美術館を多く訪れています。

主な受賞・受章
日本学士院賞、紫綬褒章、ローベルト・コッホゴールドメダル(独)、レジオンドヌール勲章・シュヴァリエ工章(仏)、瑞宝重光章、文化功労者顕彰他多数



02 | 佐野ぬい前学長、 瑞宝中綬章受章

前学長である佐野ぬい先生が、2012年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。この瑞宝中綬章は、長い期間に渡って重要と認められる職務を果たし成績を残した人物に対して授与されるもので、佐野先生の女子美術大学の教員としての職務、また洋画家としての活動が評価されました。1986年、2011年の紺綬褒章受章につづく授与になりました。

04 | 公募展受賞者紹介

ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITION 2012 最優秀賞
帆足枝里子 大学院美術研究科修士課程美術専攻立体芸術研究領域2年

「イラストレーション」 第185回 ザ・チョイス 入選
野本千洋 デザイン学科ヴィジュアルデザインコース4年

第39回 東京春季創画展 入選
山村 遥 芸術学部絵画学科日本画専攻4年

NEWS
&
TOPICS

JAM

平成 24 年度
女子美術大学大学院 修了制作作品展

3/10(日) → 3/20(水・祝)

平成 24 年度に本学大学院美術研究科を修了する 52 名の作品を展示。各領域を専攻する学生による、オリジナリティにあふれた力作の数々が会場を埋め尽くしました。

女子美ガレリアニケ

女子美術大学・長岡造形大学・東京工芸大学・
多摩美術大学・中国伝媒大学
五大学合同写真展 ○展

1/7(月) → 2/3(日)
※ 2/3 特別開廊

本学と長岡造形大学、東京工芸大学、多摩美術大学、中国伝媒大学で写真を学ぶ学生と教員の作品を展示しました。

遠浅 / 泥沼 | 泥沼コミュニティ

2/8(金) → 2/22(金)

多様化する現在のコミュニケーションを「遠浅 / 泥沼」というテーマとして捉え、そこから生まれた絵画作品、ドローイング等を展示し、関連イベントでは参加者とともにコミュニケーションについて考えました。

平成 24 年度 女子美アート・セミナー通年講座 作品展

3/14(木) → 3/20(水・祝) 前期 日本画 / ボタニカルアート
3/22(金) → 3/28(木) 後期 クロッキー / デッサン / 銅版画 / リトグラフ
※ 3/17、20、24 特別開廊(会期中無休)

女子美アート・セミナー通年講座受講生の皆さんが熱心に制作した作品を展示しました。

展覧会予告

JAM

4/6(土) → 6/9(日)

女子美術大学同窓会企画展
アニメーションの世界展
-こどもとおとなをつなぐアート-

ラテン語の anima (アニマ) を語源とする animation (アニメーション) とは「生き生きとさせる」という意味を持つ言葉。生命のないものに生命を吹き込み、本学同窓生が世に送り出し続けてきた生き生きとしたアニメーションをご高覧ください。

6/19(水) → 7/28(日)

葦崎大村美術館収蔵作品展 女流画家の歩み

本展では葦崎大村美術館と学校法人女子美術大学の相互協力協定 5 周年を記念し、葦崎大村美術館で所蔵する作品のなかから、女子美術大学出身者の作品を中心に約 40 点の絵画をご紹介します。

歴史資料展示室

1/16(水) → 7/15(月・祝)

佐藤志津と
私立女子美術学校再興展

本学の初代校主・第 2 代校長を務めた佐藤志津の生涯と本学における活動を紹介する展示です。

女子美ガレリアニケ

4/6(土) → 6/8(土) ※ 4/7、6/2 特別開廊

前期 4/6(土)~5/2(木)、後期 5/13(月)~6/8(土)

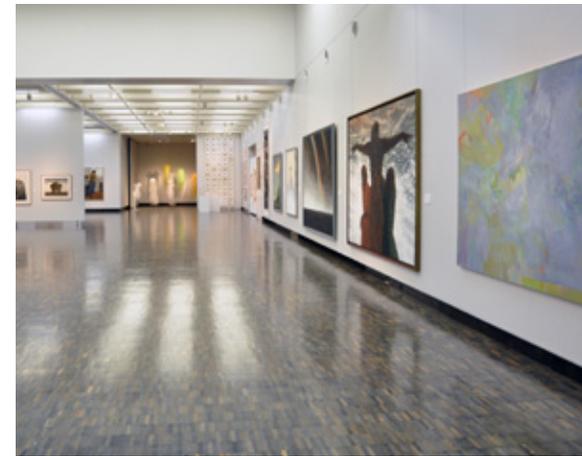
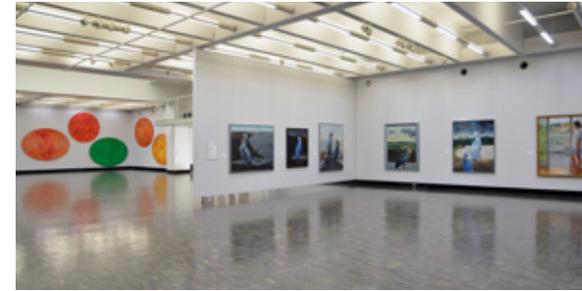
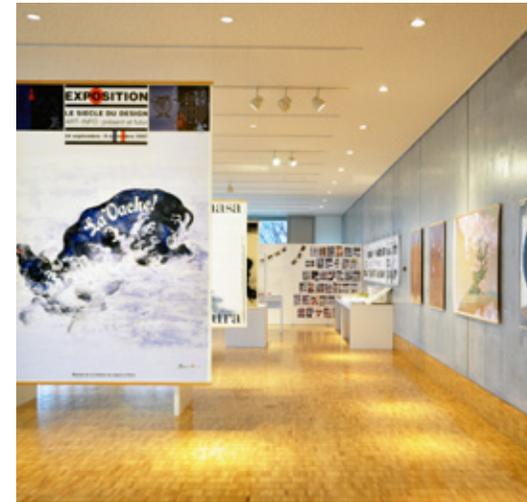
平成 24 年度 女子美術大学美術館賞受賞者作品展

平成 24 年度女子美術大学美術館賞を受賞した学生 9 名の作品を 2 期に分けて展示します。

7/2(火) → 8/6(火) ※ 7/14、15 特別開廊

女子美術大学短期大学部 1 年前期 学生作品展(仮称)

本学短期大学部 1 年次の自由選択授業で制作された学生作品を展示します。



JAM 展覧会報告 PICK UP

2013/1/17(日) → 1/24(木)

当館では毎年、その年度に退職される美術系教員の作品を一堂に展示する「女子美術大学 女子美術大学短期大学部 退職教員記念展」を開催しています。今年度は 11 名の先生方(江川澄子、岡崎和美、小川正明、奥村敦正、小野克子、小山容子、河邑厚徳、篠崎京子、中嶋猛夫、宮城真吉武研司)の作品を紹介しました。

本展では、洋画、日本画、立体アート、ヴィジュアルデザイン、環境デザイン、メディア表現、ファッションテキスタイルと、多様なジャンルの個性豊かな作品が展示されました。

作家として創作活動に携わるだけでなく、本学で長年にわたり教員として後進の育成に取り組んできた先生方の幅広い活動の一端を、ご覧いただきました。退職教員の作品展示をとおして、本学の教育方針や創作活動の軌跡を顕彰する機会となったのではないのでしょうか。

平成 24 年度
女子美術大学 女子美術大学短期大学部
退職教員記念展



女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集 総務企画部広報課
監修担当 山本吉男・林規章
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink.
印刷 株式会社 ヒーローズ
発行日 2013年4月3日
©2013 学校法人女子美術大学

広報課では女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報課までご連絡ください。

広報課 | TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshi.ac.jp
URL <http://www.joshi.ac.jp>